

旺文社主催 内閣府・文部科学省・環境省後援  
『第52回 全国学芸科学コンクール』 作品募集開始  
今年の応募作品数は70,287点  
～ 今年はアート・文芸 分野で環境をテーマに募集 ～

教育出版の株式会社旺文社(本社:東京都新宿区、代表取締役 赤尾 文夫、以下旺文社)は、「第52回 全国学芸科学コンクール」の作品募集を開始いたしました。


当コンクールは、小・中・高校生の夏休みの創作活動や総合学習の一環として、また課外活動での学習成果の発表の場として多くの学校にご活用いただいております。昨年(第51回)は全国各地、またタイやアメリカなど海外から(14カ国42校、計805点)も含め、70,287点の応募がありました。

分野は、研究(人文社会科学研究・自然科学研究)・アート(絵画・デザイン・書道)・文芸(小説・詩・読書感想文)・アート(写真・ポスター)・文芸(作文・小論文)と多岐にわたります。特に今年は環境問題への関心の高まりを受け、アートと文芸において、環境をテーマにした作品を募集します。

また、作品には内閣総理大臣賞・文部科学大臣賞・環境大臣賞・分野賞のほか協賛企業・団体からの賞も含め、609の賞が授与されます。一昨年からは上位入賞者に対する奨学金制度もスタートしております。

今年も多くの子どもたちに参加していただき、「考える力」「生きる力」を養い、豊かな人間性や感性を育んでいけるよう、更に充実したコンクール運営を目指してまいります。

#### コンクールの概要

名 称	第52回 全国学芸科学コンクール	
応 募 締 切	2008年9月25日(木) 当日消印有効	
主 催	株式会社 旺文社	
後 援	内閣府・文部科学省・環境省	
募 集 対 象	全国の小学生・中学生・高校生(海外の日本人学校在籍者も含む)	
募 集 部 門	研究分野 / 人文社会科学研究(中・高)・自然科学研究(中・高) アート分野 / 絵画(小・中・高)・デザイン(小・中・高)・書道(小・中・高) 文芸分野 / 小説(中・高)・詩(小・中・高)・読書感想文(小・中・高) アート分野 / 写真(小・中・高)・ポスター(小・中・高) 文芸分野 / 作文・小論文(小・中・高) アート分野・文芸分野 は環境をテーマにした作品を募集	
応 募 方 法	応募作品は1点ごとに専用の応募票に必要事項を記入し、作品に添付。 応募票は旺文社ホームページよりダウンロード可能	
応 募 規 定	応募作品は、自作(オリジナルな創作作品)、未発表のものに限定。 他社のコンクールに応募した作品は不可。盗作、または他作の一部改変は失格。	
応募締切後の 主な予定	2008年 10月中旬～11月中旬: 1次選考・2次審査 12月5日(金) : 最終審査会実施(会場:東京) 2009年 2月中旬 : 「第52回金賞作品集」刊行 3月13日(金) : 表彰式・受賞パーティー(会場:ホテルオークラ東京) 3月下旬～4月 : 入賞作品展示会実施(会場:東京)	
応募先・ お問合せ先	旺文社「全国学芸科学コンクール」事務局 〒162-8680 東京都新宿区横寺町55 TEL: 03-3266-8002 E-mail: gakkon@obunsha.co.jp	

応募方法・応募規定などの詳細は、同封の応募要項

または旺文社ホームページ <http://www.obunsha.co.jp/> 参照

当コンクールは、文部科学省が児童生徒の学習意欲向上に資する全国的規模の大会に対して行う支援事業「学びんピック」の認定を5年連続で受けています。



## 「第51回全国学芸科学コンクール表彰式」の様子



第51回 表彰式にて 金賞受賞者と審査員、授与の先生がた



内閣総理大臣賞  
受賞者によるスピーチ

全国学芸科学コンクールは中国との文化交流を目的に、中国の出版社「中国少年儿童新聞出版総社」が主催する各種コンクールの上位入賞作品の特に優秀なものに対して、「旺文社社長賞」の授与も行っております。昨年の第51回表彰式には、本賞を受賞した生徒も、中国から出席しました。受賞パーティーでは、日本人の受賞者と言葉の壁を越えて、楽しげに交流している姿が見受けられました。



中国からの受賞者



表彰式会場に展示された受賞作品

以上

### < 会社概要 >

社 名: 株式会社 旺文社  
代 表 者: 代表取締役社長 赤尾 文夫  
設 立: 1931年10月1日  
本 社: 〒162-8680 東京都新宿区横寺町 55 TEL:03-3266-6400  
事 業 内 容: 教育・情報をメインとした総合出版と事業  
U R L: <http://www.obunsha.co.jp/>

### 【本件に関するお問い合わせ先】

株式会社旺文社 広報担当: 三澤・山縣  
TEL:03-3266-6292 FAX:03-3266-6045 E-mail: [pr@obunsha.co.jp](mailto:pr@obunsha.co.jp)

## 【活用事例】

「全国学芸科学コンクール」は多くの学校で、夏休みの創作活動や総合学習の成果を発表する場としてご利用いただいています。その事例の一つとして、約10年前より夏休みの課題として活用されている、お茶の水女子大学附属中学校(以下「お茶の水附属」と省略)の宗我部義則先生と本橋幸康先生のお話をご紹介します。

お茶の水附属は「自律・広い視野」を教育目標に、「考える力」「表現する力」の育成を重視した実践を創立当時から行っています。

自分の考えを表現する、これはあらゆる教科や場面において必要とされる力です。お茶の水附属では国語に限らず、教科の枠を超えてすべての教師が、自主研究他の取り組みを通してその指導方針を共有し、連携して取り組んでいます。

たとえば社会科では、生徒に新聞記事を選ばせ、コメントを書くことを定期的に行っています。理科では「実感しながら実験する」ことを意識させ、気づいたことや考えたことを書き出し、レポートの形にまとめます。

表現力を育てる上で何より大切なのは、「これについて取り組みたい、書きたい」という気持ちです。まずテーマや動機を自らがつかみ、調べたことや自分の考えを効果的に伝える表現方法を身につける、その過程を重視しています。

30年前から行っている「自主研究」の授業では、生徒自身によるテーマ設定・研究・発表までを、3年間通して学習します。この時間は全校共通で、学年の枠を超えて大まかなテーマごとに集まり、具体的なテーマの定め方や調査方法を生徒同士でアドバイスします。テーマが決まると、自分の研究計画に沿って調べたり、図書室やコンピュータールームで資料を探したりと、独自で活動します。チョコレートの歴史や鬼についての研究など、生徒の興味は多岐にわたり、教師も教わることがたくさんあります。

また、グループ内や学園祭などで、定期的に発表の場を設定します。3年生の後期には、選抜された生徒が全校の前で発表する機会があり、非常に質の高いプレゼンテーションが行われます。「発表をする・それを聞く」ことを通して、生徒は内容だけでなく、受け手にどう伝わるかを意識した発表の仕方を学んでいくことになります。

このような学習の一環として、10年前から、何か1つのコンクールへ応募することを、夏休みの課題としています。課題にあたり事前に行うガイダンスでは、「多数の応募作の中でキラッと光る作品にするためには、何が必要だと思う?」「選考する人は、どんな作品なら楽しんで読んでくれるかな?」などと問いかけます。すると「自分の体験や実感を書くことではないか」「“自分にしか書けないもの”が大切ではないか」などと意見が出てきます。このようにして生徒は、取り組むテーマを見つけていき、そしてどのコンクールに応募するかを選びます。

夏休みに実施されるコンクールは数多くありますが、中でも「全国学芸科学コンクール」は部門の領域が広く、テーマが限定されていないので、生徒も応募がしやすいようです。昨年小説部門で金賞をいただいた生徒は、「自主研究」で小説の書き方を研究しており、その成果の発表の場として同コンクールに応募しました。

生徒たちは世の中に自分の意見を発表することに意欲的で、提出された作品には熱意を感じます。提出後も審査の結果を心待ちにしているようで、「先生、結果は来た?」とたびたび聞いてきます。そして審査員の方々に評価された時の喜びは、生徒にとっても非常に大きく、その後の学習のよい刺激にもなります。

お茶の水附属は今後も「生徒自身が自主的に課題を探究し、自分の思いや考えを表現していく姿勢とその力」を育てていきたいと考えております。



お茶の水女子大学附属中学校  
国語科教諭 宗我部 義則 先生(左)  
国語科教諭 本橋 幸康 先生(右)

### お茶の水附属の「全国学芸科学コンクール」での受賞実績

年度	受賞内容
2001年	入選 2名、 努力賞 2名
2003年	入選 1名
2004年	入選 1名、 努力賞 1名
2006年	入選 4名
2007年	金賞 1名、 入選 2名